

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372201024		
法人名	有限会社 敬仁会		
事業所名	グループホーム万富の家		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1908-1		
自己評価作成日	平成26年2月13日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

活力ある毎日を送ってもらえるよう、午前中に体操、歌を唄ってもらう。個々のペースを大切にのびのびと過ごしてもらう。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372201024-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372201024-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成26年2月26日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設8年目を迎えるホームは新しく男性利用者2名が入り、全体の平均年齢も若返り、以前からの利用者達もそう大きな変化もなく元気な人が多い。「その人らしく自由に、時にはわがままも通してもらっている」と管理者が言う様に利用者は実に伸び伸びと暮らし、毎日、歌声がホールいっぱい響いている。男性利用者も皆の輪の中で「昔の歌を唄うと心もついてくる」と懐かしみ、職員もその輪の中の一員となって自然体で付き合っている。一見元気に見える人も身体機能のレベル低下は否めず、残存機能を少しでも維持しようと職員は日々のケアを工夫している。社長の息子さんも職員として勤務しており、同法人の「万富の郷」とも職員交流やイベント等も合同で開催し、お互いの協力体制も出来ている。地域の人との交流も活発でありこの地にその存在が定着しているホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲載し、また会議等で話す機会を設け、より理念に沿うよう仕事をしている。	今年度のホームの方針はトイレ誘導を重点に置いている。家族の経済的負担を抑える目的で紙パンツに掛かるコストを考慮し、職員はこまめな声掛け・誘導を心がけながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントの際には、地域の人にボランティア(協力)を得ている。また地区の人とも親しく話ができ、声掛けも良くして下さる。	地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、ホームのもちつき大会には地域の老人会も一緒に手伝ってくれる。秋祭りには子供神輿が寄ってくれ、地区の子供会との楽しい交流もある。日頃から地域の協力や繋がりが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区文化祭(万富公民館)に参加し、出品展示し、見学に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の活動、利用者の状況などを報告している。行事などへの参加、ボランティア依頼など地域に密着した活動、交流を行っている。	運営推進会議には包括職員、老人クラブ、民生委員、区長、家族等の参加があり活動報告、意見交換等を活発にしている。開設7年目であり、2カ月に1回開催しているが、社長の方針で職員の意識向上の目的もあり、外部評価を毎年受けている。	家族の参加が少ないという意見もあるので、手紙での案内は勿論のこと、家族が参加しやすい曜日にしたり、運営推進会議と行事を一緒にする等、職員間で話し合ってもうひと工夫して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター担当者に現場の状況を理解していただきアドバイス等協力を得ている。	日常生活自立支援の市社協の担当者とは日頃からよく連携を取っており、地域包括職員とも運営推進会議等で情報交換をしている。それ以外にも何かあるたびに市の担当者に相談をし、助言、指導を仰ぎ日頃から良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が対応方法を徹底し自由で安全な生活を支援している。	身体拘束をしないというホームの方針もあり、声掛け等を徹底的に実行しながら、見守り支援している。この日も廊下のドアを開けて外に出ようとした利用者がいたが、チャイムの音に気づいた職員の素早い行動と声掛けで利用者も納得していた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体に出来るアザ、傷を発見したとき、職員で確認しあい原因等話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他事業所の成年後見人の実例を聞き制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所の方針などを話し、対応可能な範囲について丁寧、時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一度「万富の家だより」で近況をお知らせしている。また、電話、面会時にコミュニケーションを図り意見をいただいている。	利用者の担当制を定め、毎月、行事案内や状況報告等を手紙で知らせている。家族の面会も多く、また、行事への参加時等、いつでも気軽に話し合える関係が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員同士コミュニケーションを図り案を出し合っている。	月1回開催している職員会議での意見交換の他、毎日の申し送り時や日頃の会話の中でも気軽に職員間で話し合っている。職員同士の信頼関係も出来ており、社長もよくホームに来てくれるので、意見や要望が反映されやすい体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別の相談を受け、向上心を持つように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修で資質の向上を自主的に持ち、自己啓発を重点に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換のできる事業所があり連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期入所者の方にはコミュニケーションを密にし、他入所者と職員との信頼関係が持てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には耳を傾け、入所者の状態を細かく伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや状況を確認し、改善に向けた必要なサービス提供に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを時間をかけ聞き理解し、苦しみ喜びをスタッフと共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を家族に報告し、入所者の思いまた職員の思いを家族に伝え協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人、姉妹など施設に遊びに来てもらい交流が来ている。	家族と一緒に利用者の夫の実家に行ったり、花火大会に出かけた事もある。ほぼ9人全員の家族の面会がよくあり、週末、盆、正月等は自宅に帰って家族と過ごす人もいる。職員は馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士で過ごす場面づくり、みんなで楽しく過ごす時間を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供を得て連携に心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で会話より本人の意向を見出している。心身状況の違いなど個人を尊重した介護方法で対応している。	カンファレンスには利用者、家族が参加して職員と一緒に生活プランを話し合うこともある。意思表示できる人には本人の意向をよく聞き、難しい人には表情やしぐさ等から思いを汲み取り、家族からも話を聞いてプランに反映させている。	利用者の感情や行動の変化には必ず理由がある。「何でそうなるのか?」というところまで一歩踏み込んで考えてみると、利用者の心の内が見えてくる。利用者の発言、行動の記録も気づきに繋がってくると思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当マネージャーより情報を収集し、入所してからの対応を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人で過ごしたい方がおられ、それぞれの性格にあわせ無理のない生活を送っていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体、精神状況を話し合い、家族と職員と相談し最善な策で計画し実践している。	アセスメントをしっかりと取りながら、個々の状況の変化に応じて、利用者・家族・計画作成担当者・職員間で話し合いながらケアプランを作成している。モニタリングも定期的実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り時、心身の状況、会話などの情報を伝え介護計画、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化を看護師に相談し、かかりつけ医に連絡しアドバイスをしてもらい受診、往診、薬受けの代行をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二か月に一度の運営推進会議で夏祭り、クリスマス会、餅つき大会など地区の方々に行事の協力、共同で楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望される掛かりつけ医になっている。家族の受診同行、また職員も同行することもある。掛かりつけ医と連携し適切な医療を受けられるようにしている。	ホームの協力医、以前からのかかりつけ医を受診する人、それぞれである。家族が受診の付き添いをする人が多い。かかりつけ医の往診もあり、急変時にはいつでも迅速に対応してもらえるので安心である。また、職員に看護師がいるのも心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護は密に連携が取れており十分な支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換は出来ている。対応可能な段階で早期に退院できるよう、医師と相談する機会を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と家族また職員で連携をとり、家族が納得できる介護、支援をしている。	心身の状態も比較的安定している人が多く、ターミナルを心配する人はいない。医療的行為が発生した場合は入院する人が大半であるが、今後、本人・家族の希望があり医療機関とも連携・協力が可能な場合はよく話し合っていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは掲示し、会議や休憩時間も職員同士話し合いが出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回入所者と共に訓練している。運営推進会議で地域の協力もお願いしている。	日中と夜間を想定した消火訓練・避難訓練をしている。今回は消防署からの指導があり、事務所のロールカーテンを防災カーテンに交換した。また、救命救急講習会も受けた。緊急時の避難場所も近くにあり、連絡体制も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を把握し言葉かけに心がけている。	入浴時の衣服の着脱に「恥ずかしい」と言って拒む人がある。職員はその人の気持ちを察しながら、人格を尊重する言葉かけ等、工夫しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを尊重している。本人の意見が言えるよう声掛けもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせて要望を聞き職員と相談し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧など本人と相談しながら季節感を考慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を使い献立をたて、食べたい物を聞きメニューに入れている。野菜のしょうやくなど出来ることを手伝ってもらっている。	職員の中に「献立係」が決まっており、3食ともホームで手作りしている。畑で採れた旬の野菜を使い、利用者も下ごしらえを手伝いながら調理する。今日のおやつはホットプレートで職員と一緒にたこ焼きを作り、皆で美味しくいただいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量など経過記録に記入し把握している。体調に合わせて刻み、粥、ペーストで工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の状態に応じた歯磨きの声掛け、誘導をしている。入れ歯洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	二時間ごとのトイレ誘導で失敗の無い様になっている。また入所者個人のトイレサイクルにも気を付けている。	紙パンツを使用している人も、声掛けのサイクルを短くしたトイレ誘導で、失敗する回数が少なくなった。男性利用者も2名いるが、便座に座って排泄する習慣をつけてもらい、職員は排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をしっかりともらい気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一回は入浴してもらっている。希望も聞き体調に合わせた入浴方法にしている。	曜日を決めて、入浴タイムは午後の週2回を基本としているが、利用者の体調や希望に応じて柔軟に対応している。入浴拒否の人も職員の上質な声掛け誘導に、入ってしまえば「ありがとう、気持ちええ！」の言葉が返ってくると聞いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態に応じ休憩していただき、夜間ぐっすり眠れるよう、日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで把握できるようにしている。用法、用量の変更の際は、主治医、看護師、職員と連携して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった得意なことを発揮してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、外泊、外出したり、家族の協力があっている。	近くの英国庭園や運動公園にお花見、紅葉狩りを兼ねて職員と一緒にドライブや食事に行っている。職員と一緒に利用者が作成して文化祭に出品したちぎり絵・ぬり絵作品の見学に公民館に行く等、出来る限り外出の機会を増やすようにしている。また、家族との外出・外泊の支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者の状況、状態に合わせて買い物などで支援、応援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者から友人、家族に電話したり、また家族や友人からの電話もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある置物や貼り絵を入所者と一緒で作成している。	一日中利用者の歌声が響いているそんなリビングルームであり、誰かが歌い出すと男女問わず合唱が始まる。隣同士で「お上手～」のかけ声。ぬり絵をする人、じっと聴いている人等、それぞれに過ごしながら、温かい雰囲気に入れ笑顔が絶えない場所であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、テーブルを置き、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく写真や置物を飾り、心地よい空間、雰囲気作りをしている。	利用者の身体状況や生活様式に合わせ、ベッドの人、畳の和式スタイルにしている人等、馴染みの家具や身の回り品がその人らしい部屋になっている。中には家族に了解を得て、クローゼットの取っ手を職員が工夫している人もいて細かい配慮もしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手摺、スロープなど設置している。		